

「成果指標」について

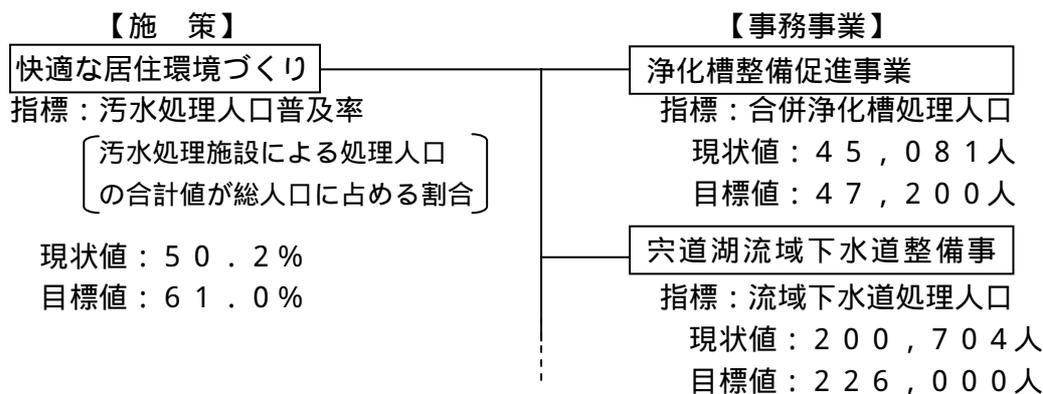
成果指標とは

広く県民と目標を共有できる計画とするためには、わかりやすい目標を具体的な数値で明らかにする必要があります。このため、予算などの「投入量」や、その活動による「産出量」で目標を表現するのではなく、住民にもたらされた便益や満足度などの度合いを示す「成果指標」を用いることとしています。

総合発展計画では、その行政活動によって、どれだけの効果・効用がもたらされたかを数値化する「成果指標」を、すべての「施策」や、それを構成する「事務事業」に設定する予定です。

【例】

「成果指標」による目標設定



「投入量」による目標設定

下水道等の汚水処理施設に投入した事業費： 円

「産出量」による目標設定

円の予算を投入して整備した下水管延長： m

適切な成果指標が選定できない場合

成果指標は、施策の目的に対応した成果が実現しているかどうかを端的に表していること、データとして把握でき、数値化が可能であること、を満たすものを設定することが理想です。しかし、データの収集に大きなコスト等がかかるなど適切な指標が設定できない場合は、次善の策として施策の成果の一部を表す代替の指標を設定する場合があります。

【例】

県産品の販路開拓・拡大の支援

目的：東京を主力ターゲットとして重点産品を中心にPRと販路開拓を行い、認知度を向上させ、県産品の販路拡大を進めます。

理想的指標：県外での県産品年間販売額

この販売額がわかる調査は行われていないため、仮に実際の数値を把握しようとする
と膨大なコストがかかります。このような場合には、やむを得ず代替の指標「代替的
指標」を用いる場合があります。

代替的指標：「にほんばし島根館」における年間販売額

島根県が全国を先導してきた代表的な施策等

・地域振興・過疎対策

中山間地域対策への取り組み	全国初めてとなる「中山間地域活性化基本条例」を議員提案により制定（H11）するとともに、中山間地域の集落維持、活性化のために、自らが考え実施する集落の振興・活性化プランを支援する事業を展開。（H11～H13）
若者定住向け賃貸住宅	地域の若者やUターン者等の定住促進を図るため、所得制限を設けない賃貸住宅を建築する市町村への支援策として、全国で初めての取り組みを開始。（H5～）平成15年度に、制度の見直しを行い、「島根県定住促進賃貸住宅建設事業」として、実施している。
ふるさと島根定住財団の定住支援事業	総合的な定住情報の発信や様々な工夫によるU・Iターン施策を展開（H4～）特に、H8から始めた産業体験事業は、過去11年間で1,109名が修了し、うち514名が県内に定着するなどの成果
中山間地域研究センターの研究事業	中山間地域における新しいコミュニティ形成に関する研究や、GIS（地理情報システム）を活用した森林情報・鳥獣情報等の提供等、全国に先駆けた中山間地域研究を展開（H10～）
県・市町村共同の地域づくりのための県職員の派遣	合併支援のために全ての合併協議会に県職員を派遣（延べ23人）したほか、地域産業や中山間地域振興のために、市町村に対し県職員を駐在派遣することにより、県・市町村共同の地域づくりを展開（H14～）

・福祉・医療・高齢者・子育て施策

夢ファクトリー推進事業	中高年齢者がこれまで培った知識・経験・技術等を活かして自主的に取り組む、生産・加工及びサービス提供などの継続的なコミュニティビジネスに対して助成することにより、活力のある地域社会づくりを促進する。（H11～：190団体に助成）
しまね・まめなかネット	ITを活用し、買い物、交通情報、健康相談などの情報サービスを提供する高齢者の総合的生活支援プログラムを開発し、旧仁多町・旧邑智町で実証運用（H13～）
病院統合情報システム	移転開院した県立中央病院において、全国初の病院統合情報システム（IIMS）が運用開始。日本のIT医療革命（H11～）
がん対策への取り組み	昨年9月に全国初の条例である「がん対策推進条例」が議員提案により制定され、その条例の趣旨に沿って、がん予防の推進、がん医療水準の向上、患者支援を柱とする「しまねがん対策強化事業」に取り組む。
しまね子育て応援パスポート Coccolo(こっころ)	子育てを社会全体で応援する地域づくりを進めるため、子育て家庭に交付された子育て応援パスポート（こっころ）を架け橋に、協賛店が独自の子育て応援サービスを提供するシステムを構築（H18～）
放課後対策事業	養護学校等に通学する児童生徒が放課後や長期休業中を充実して過ごすことができるよう「ハッピーアフタースクール」を全国に先駆けて実施。（H13～）
子ども支援センター事業	様々な困難を抱える子ども達の問題解決や立ち直りを図るため、県内4市に子ども支援センターを設置し、行政とボランティアが協働した支援活動を展開（H16～）

・農林水産業・商工業施策

集落営農の推進	集落営農を地域農業の重要な担い手と位置づけ（新農業農村プラン）育成。H19年度から導入される「品目横断的経営安定対策」に多くの集落営農が対象となるよう規模要件の緩和を要望し、ほぼ島根県の要望どおりの要件緩和が実現。
特定農業法人の育成	全国に先駆けて集落営農の特定農業法人化を推進。H13年度までは確保数全国1位（現在2位）。「品目横断的経営安定対策」の導入に際しても、特定農業法人が対象となるよう要望し、認定農業者と同様な要件で対象となることが実現。
新規就農促進事業	新規就農者に研修資金を月々貸し付ける制度「若い農業者就農促進対策事業」をH2年度に創設。のちに国の制度として全国展開される。
農業法人の雇用対策	新規就農者を雇用しようとする農業法人に研修教育費を貸し付ける制度「農業法人等雇用就農資金貸付事業」をH12年度に創設。のちに国の融資制度に組み入れられる。
企業の農業参入促進	企業の農業参入を促進し、新しい農業の担い手として確保・育成する施策を全国に先駆けて展開（H14～）

鳥獣対策	中山間地域研究センターにおいて、有害鳥獣対策の専門体制（研究員3名）を確立した（H14～）。また、鳥獣対策専門員および指導員制度を創設し、被害対策の知識普及、現場における技術定着を推進してきた（H15～）。
イワガキの養殖・事業化	イワガキの種苗生産・養殖に全国で初めて成功し、隠岐を代表するブランド商品として定着（H10～）
しまねの鮎づくりプラン	島根の清流に、島根の川で生まれ育ち、島根の資（もと）となる天然遡上アユを復活させることを目標に、その運動を推進するための「しまねの鮎づくりプラン」を県下内水面漁業団体と県が全国に先駆けて策定した。（H18～）
浜田産マアジのブランド化	近赤外線測定技術を全国に先駆けて生産現場に応用することによって、アジの脂質含有量をクイックタイムで把握することを可能とし、浜田産マアジのブランド化を促進した。（H16～）
企業支援のワンストップサービス	経営、技術、資金、販売、情報等の企業支援をワンストップサービスで行うしまね産業振興財団の取り組みが、国の新事業創出促進施策に全国でいち早く採用された（H11～）
新産業創出プロジェクト推進事業	本県産業の振興を図るため、全国で唯一、県自らが牽引役となり、本県独自の新しい材料・技術を開発し、県内での応用製品の製造を図り、国内外地域との競争に勝ち残れる裾野の広い産業群の形成を目指して取組中（H16年度～）
民間人材の登用	変化の激しい経済状況のなかで、スピード感のある産業施策や新産業に対する目利きができる人材が必要であることから、全国で初めて、県組織内に産業創出プロデューサーと産業技術センター所長に民間企業等で実績のある県内出身者を配置している（H15年度～）
知的財産の活用促進	知的財産の活用によって産業振興を図るため、県は、H13年に全国自治体として初めて日本弁理士会と特許の取得と活用についての支援協定を結んだ。これをきっかけに全国に広まっている。その後、H17には県・日本弁理士会・島根大学・松江工業高等専門学校の四者による支援協定の締結も全国初。

交通・通信・防災施策

道の駅の整備	国道54号線沿線住民が、車両で通過する県外からの人々との交流の場を設けて地域活性化を図るため「掛合の里」を提案し、整備された。全国初の「道の駅」として登録される。（H5）
情報通信基盤整備	民間通信事業者の設備投資を誘導する県独自の方法により、全国に先駆け、条件不利地域における情報通信基盤の整備を推進。現在、県内においては全世帯の99%で高速インターネットサービスが利用可能。（H13～）
土砂災害警戒情報及び危険度情報の発表	昨年6月から、市町村の防災活動や住民避難の目安となる「土砂災害警戒情報」を市町村単位に発表（全国3番目）。また、土砂災害が発生する恐れを位置的・時間的に、5kmメッシュで四段階にレベル表示した「土砂災害危険度情報」を県のHPや携帯サイトで提供（全国初）。

教育・文化施策

「食」の指導・教育	全国に先駆けて、小学校の全児童に「食の学習ノート」を配布し、望ましい食習慣の形成や地産地消についての学習を深める（H15～）
ふるさと教育の推進	ふるさと島根への愛着を深め、ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましい明日の島根を担う子どもの育成を図るため、学校と地域と家庭が一体となって、地域の「ひと」「もの」「こと」を活用し、全国に先駆けて、県内全市町村、全小・中学校で、ふるさと教育を推進。（H16～）
実証！「地域力」醸成プログラム	公民館が培ってきた「地域力」醸成のノウハウ（地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた学習・実践活動に地域住民の力を取り入れていく仕組み）を、モデル公民館の具体的活動を通じて実証することにより、「地域力」の重要性について世論を喚起する取り組みを全国に先駆けて推進。（H19～）
島根の古代文化調査・研究と全国への情報発信	平成4年に、島根の古代文化の調査・研究の成果を全国に情報発信することを目的に古代文化センターが設置された。平成9年度に東京・大阪・松江で開催した「古代出雲文化展」は、地方からの文化的情報発信の先駆けとして高く評価されている。また、本年開館した古代出雲歴史博物館の展示内容が全国的に高い評価を得ている。
文化財子ども塾	昭和62年から文化財子ども塾と称し、小学校へ出かけての出前授業、学校主催の体験学習への支援、小中学生の埋文センター見学受入、文化財を生かした授業実施のための教員養成などを積極的に展開し、全国の先駆けとなった。

しまねがイチバン

島根県が日本に、世界に誇るあれこれ

世界一!

365日計れます



大田市仁摩町のサンドミュージアムにある砂時計は高さ(5.2m)、砂の容量(1t)、砂が落ちる時間(1年間)が世界一。

環境保護や鳴き砂保護のシンボルとして造られた。

写真提供：大田市

世界一!

まるで高層マンション



浜田市沖の日本海に新たな漁場開発を目指して、高さ40m(12~13階相当)、重さ109tの高層魚礁(マンモスリーフ)が2基設置された。

地元漁業者からは、「魚がよく捕れるようになった」と評判は上々。

日本一!

日本一大きな露天風呂



「出雲国風土記」にも登場する玉造温泉の長楽園には、広さ約120坪の庭園露天風呂があります。

手足を伸ばして、ほっこりしてみませんか。

日本一!

現存する最古の社殿



松江市の神魂(かもす)神社の本殿は、現存の大社造の社殿としては最古のもので、国宝に指定されています。

日本一!

たか~い灯台



出雲市大社町にある出雲日御碕灯台は、高さ43.65mで日本一の高さを誇る。

世界の歴史的灯台百選(国際航路標識協会)に選ばれた。

初点灯は明治36年4月1日。

写真提供：浜田海上保安部

日本一!

八束町は花どころ



松江市八束町のぼたん生産量は年間約180万本で日本一。そのうち60万本近くが輸出されている。

シーズン(4~5月)になると、大根島には色とりどりの大輪の花があふれる。

写真提供：松江市

日本一!

日本一の縁結び



出雲市大社町にある出雲大社神楽殿のしめ縄は長さ13m、胴回り9m、重さ5トン。

長さと胴回りが日本一。

写真提供：出雲大社

日本一!

巨大なオロチ出現



奥出雲町にある奥出雲おろちループは標高差(167m)、長さ(4km)が2重ループ方式の道路として日本一。

写真提供：奥出雲町

日本一!

どっさり見つかりました



加茂岩倉遺跡で平成8年10月、39個の銅鐸が出土された。1遺跡での銅鐸出土数では日本一。

斐川町荒神谷遺跡と共に、弥生時代の出雲の青銅器文化を知る上で貴重な遺跡。

写真提供：島根古代文化センター

日本一!

日本一の桜



浜田市三隅町の三隅大平桜は、高さ太さなどすべてにおいて日本一。根元周りは5.4メートル。地上2メートルのところで4本の幹枝に分かれているので、満開のときには雪の小山のような美しさ。

写真提供：浜田市

日本一!

宍道湖産は高級品



宍道湖でのヤマトシジミ漁獲量は約7,400トン(平成13年)で、全国の4割をしめ日本一。

日本一!

パチパチパチ



奥出雲町の雲州そろばんは、材料は地元の檜・梅・すす竹を用い、名工の鋭い勘と腕によって見事な作品を作り上げる伝統工芸品で、横田町を中心に全国生産量の70%を生産している。

日本一!

出雲のシンボル



出雲市にある出雲ドームは日本最大の木造建築として平成4年4月にオープン。高さ48.9mのドームのアーチは、米国から輸入した約2000トンの集成材で構成されている。

写真提供：出雲ドーム

日本一!

はっけよい、のこった!



史上最強の力士雷電為右衛門は、並外れた体格と怪力を見込まれ、松江藩に召し抱えられた。45歳で引退するまでの勝率は9割6分2厘（254勝10敗14預かり2引き分け）。これは相撲史上最高の記録。

写真提供：島根県古代文化センター

日本一!

甘くておいしいね



色つや、香り、甘味と三拍子そろった島根の西条柿。

その作付面積は488haと、日本一を誇る。この柿のブランド名「こづち」は、大黒様の打ち出の小槌から採ったもの。

日本一!

大きな天然記念物



益田市にある馬谷城山鉾山は、産出する水晶の大きさが日本で一番。長さ数メートルに及ぶ石英の巨大結晶が集合して産出されたことで有名で、最大のものは直径10メートル、長さ17メートルに及ぶ。

日本一!

衝撃的な発見でした



昭和59年7月に、全国で例を見ない358本の銅剣が斐川町の荒神谷遺跡で発見された。それまでの弥生時代の青銅器文化や古代出雲の概念を覆す大きな発見となった。

写真提供：島根県古代文化センター

日本一!

これぞ湯治



三瓶山のふもとにある池田ラジウム鉱泉は、ラドン含有量日本一の温泉。神経痛・リュウマチなどに高い効果がある。

写真提供：大田市

日本一!

塩干カレイ



浜田市の特産品である「塩干カレイ」は、全国の生産量の約50%を生産している。京阪神を始め関東市場へも出荷され、品質も高い評価を得ている。

日本一!

江島大橋



松江市八束町と鳥取県境港市にかかる全長約1,446mの江島大橋は、中央径間250mでP Cラーメン橋として日本（東洋）一。

唯一!

古代にタイムスリップ



松江市の八雲立つ風土記の丘資料館にある風土記植物園には奈良時代に出雲国でまとめられた『出雲国風土記』に記されている植物のうち約100種が植えられている。日本で唯一の風土記植物園。

唯一!

名刀の生まれる場所



奥出雲町には日本で唯一玉鋼を生産する日刀保たたらがあり、この玉鋼は全国の刀匠に配られ、現代の名刀に生まれ変わる。なお、木原明 村下（むらげ）は、「現代の名工」に認定されている。

写真提供：日本美術刀剣保存協会

唯一!

日本で一カ所だけの稲『成』



津和野町にある太鼓谷稲成神社は日本で唯一の「稲成」の字を使う神社で、日本五大稲荷の一つに数えられている。

写真提供：太鼓谷稲成神社

唯一!

唯一の完本



奈良時代、全国各地でその地域に関する調査報告書が作られ、そのうち出雲の国で作られたものが出雲国風土記。全国60カ所余りで作られた風土記も、今に残っているのはわずか5カ所、そして完全な形で残っているのは唯一出雲国風土記だけ。

写真提供：島根県古代文化センター

唯一!

重要伝統的建物群保存地区に選定



石見銀山の外港として繁栄した大田市温泉津町が、日本で初めて「温泉街」として選定を受けました。

唯一!

日本で唯一この地で産出



日本で最初に、霞石と黄長石が発見されたのは、浜田市長浜丘陵である。黄長石は、日本で唯一、この地で産出する。玄武岩中に霞石と黄長石が認められるのは、世界的にもめずらしい現象であり、地質鉱物学上貴重な存在である。

写真提供：浜田市教育委員会

世界初!

世界初の缶コーヒー



昭和40年9月に浜田市で誕生。戦前は東京銀座で「コーヒーを楽しむ會」を主宰していた三隅町出身の三浦義武が昭和26年に浜田市内でコーヒー専門店「ヨシタケ」を開店した後、世界初の缶コーヒー「mira」を完成・発売した。

日本初!

日本初の国産レンズ



隠岐の島町にある西郷岬灯台は大正10年3月31日、隠岐諸島で最初に建てられた灯台で、日本で初めて国産の4等レンズが使用されている。

写真提供：隠岐の島町

日本初!

暁の超特急



日本選手として初めて斐川町出身の故吉岡隆徳氏が100m走で1935年に10秒3の世界タイ記録を出した。

写真提供：斐川町

日本初!

五・七・五・七・七



八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を
素戔嗚尊がヤマタノオロチ退治後、稲田姫と結婚する際に詠んだ
和歌は、日本で最初に詠まれたものとみなされている。

日本初!

美味！日本海のミルク



隠岐郡西ノ島町の中上光さんは、これまで天然でしか獲れなかった
イワガキの、人工採苗による養殖を日本で最初におこなった。

日本初!

『出雲國神仏霊場』開設



平成17年4月、出雲地方（鳥取県西部を含む）の由緒ある20
の神社と仏閣が神仏や宗派を超えて連携し、「心の旅」を提供す
るための「出雲國神仏霊場」巡拝ルートを開設した。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/kochokoho/ichiban/>